

---

# 六本木アートナイト 2023 [インクルーシブ・アート・プログラム]

---

## 実施報告書



六本木アートナイト実行委員会



---

## 1. 本事業の概要

六本木アートナイトでは2018年度より、さまざまな人たちと六本木アートナイトを巡る「インクルーシブ・ツアー」を開催している。今年度は、これまで実施してきた現場で実際の作品を鑑賞するツアーに加えて、コロナ禍で広く普及したオンラインによる鑑賞プログラムを企画、「インクルーシブ・アート・プログラム」として2つのプログラムを実施した。

**企画協力:** NPO法人エイブル・アート・ジャパン(以下、エイブル・アート・ジャパン)

### 〈プログラム詳細〉

**インクルーシブ・アート・プログラム「都市のいきもの図鑑へ出発！」**

**プログラム① 鑑賞ツアー「みんながおしゃべりトラベラー！」**

**日時:** 5月27日(土) 14:00~16:00

**会場:** 国立新美術館内

**対象:** 鑑賞会に関心のあるすべての人(定員10名程)

※手話通訳あり

**プログラム② オンライン鑑賞「空想シェアライン」**

**日時:** 5月28日(日) 14:00~16:00

**会場:** オンライン

**対象:** 鑑賞会に関心のあるすべての人、発達障害の人、精神障害の人など(定員10名程)

**参加方法:** Zoomを使用

### 〈目的〉

- ・ 六本木アートナイトをインクルーシブ(社会包摂的)にするためのプログラム実施
- ・ 障害のある人の「ために」ではなく、障害のある人やさまざまな人と「ともに」活動することで、新しい価値創造についての気づきを得る機会とする
- ・ より多様な参加者が物理的・心理的バリアーを感じず参加できるようにする
- ・ 多様な人たちとの対話鑑賞により、新たな鑑賞の視点を得る

※「対話鑑賞」=美術鑑賞を、言葉を使ってやりとりしながら、作品を深く感じる試み

---

## 2. プログラム実施詳細

### プログラム①

#### 鑑賞ツアー「みんながおしゃべりトラベラー！」

国立新美術館内展示の作品を中心に、視覚障害・聴覚障害のあるファシリテーターとともに対話による作品鑑賞を行なった。ツアー後には会議室で感想を共有する時間を設け、対話を深める構成とした。

日時：5月27日(土) 14:00～16:00

会場：国立新美術館内

対象：鑑賞会に関心のあるすべての人(定員10名程)

参加者：11名(うち聴覚障害7名)

※手話通訳あり

#### ●実施体制

ファシリテーター：井戸本将義(視覚障害)、徳江サダシ(聴覚障害)

手話通訳士：丸山垂穂、和田みさ、小松智美、村山春佳

ラーニングキュレーター：白木栄世(森美術館)

進行：エイブル・アート・ジャパン

#### ●鑑賞作品

- ・ 鴻池朋子《狼ベンチ》
- ・ 鴻池朋子《武蔵野皮トンビ》

#### ●タイムスケジュール

- ・ 挨拶・趣旨説明・鑑賞上のお願い(4分)
- ・ 参加者自己紹介(10分)
- ・ 鑑賞の説明(10分)  
～移動～
- ・ 作品鑑賞① 鴻池朋子《狼ベンチ》(25分)  
～移動～
- ・ 作品鑑賞② 鴻池朋子《武蔵野皮トンビ》(30分)  
～移動～
- ・ 全体での振り返り・鑑賞の共有(20分)

#### ●鑑賞のポイント

- ・ ファシリテーターや参加者同士での対話を重視し、全体を2グループに分け少人数で鑑賞を行なった。
- ・ ファシリテーターが視覚障害と聴覚障害という異なる特性をもつため、鑑賞作品ごとにファシリテーター

ターを交代し、異なる鑑賞体験ができる流れとした。

- ・ 触れる作品(狼ベンチ)を鑑賞作品に入れ、視覚障害の人にとっても作品を直接体験できるようにした。
- ・ ツアー開始前に、鑑賞時の願いを共有。
  - 発言時のルールを設定。「手を挙げる→マイクをもつ→名前を言う→発言」
  - 聞こえない人・聞こえにくい人から手話が見えるよう、立ち位置に配慮。
- ・ トランシーバーを使ってファシリテーターおよび参加者の発言を全員に共有し、同時に手話通訳で聴覚障害者への情報提供を行なった。
- ・ 筆談ボードを用意し、参加者同士が直接コミュニケーションをとれるきっかけとした。

## ●当日の様子

冒頭は全員で輪になり、自己紹介として「呼んでほしい名前」や「チャームポイント」を発表。それぞれの個性が伝わり場の雰囲気をもたらし、鑑賞体験の時間となった。作品鑑賞では、最初に各自作品をじっくり見る時間をとったのち、グループごとに対話鑑賞を行なった。視覚障害のファシリテーターからは、「何が見えるか」「どのように感じるか」などを参加者に投げかけ、言葉での対話鑑賞で作品を深めた。聴覚障害のファシリテーターからは、作品から得た印象的な点を参加者に投げかける形で対話が進んだ。鑑賞作品「狼ベンチ」の見た目を表現した手話が自然と生まれみんなそれを真似するなど、相互のコミュニケーションが盛り上がっていた。少人数のグループで鑑賞を行うことで参加者からも積極的な発言があり、活発な対話鑑賞となった。最後の振り返りでは、参加者全員で鑑賞体験を共有し感想を発表。一人で鑑賞するのと違い、グループで対話しながら鑑賞することでたくさんの気づきや発見があったという声が上がった。またファシリテーターからは、「多様な人が集まり自然と工夫し合ったり、お互いに歩み寄りながらの鑑賞や対話によって、良い場を作ることができた」「お互いの特性でなく、人として感じたことを平等に共有できたと感じた」という感想が寄せられた。

## ●当日の様子



---

## プログラム②

### オンライン鑑賞「空想シェアライン」

発達障害、精神障害のあるファシリテーターと一緒に、六本木アートナイトの作品を鑑賞しながら自由に想像を膨らませて対話をするオンラインプログラムを実施した。

日時：5月28日(日) 14:00～16:00

会場：オンライン

対象：鑑賞会に関心のあるすべての人、発達障害の人、精神障害の人など(定員10名程)

参加方法：Zoomを使用

参加者：8名(うち発達障害等2名)

#### ●実施体制

ファシリテーター：ウルシマトモコ、岩田ゆず子

進行：エイブル・アート・ジャパン

#### ●鑑賞作品

- ・エマニュエル・ムホー《100 colors no.43「100色の記憶」》
- ・鴻池朋子《武蔵野皮トンビ》
- ・鴻池朋子《狼ベンチ》

#### ●タイムスケジュール

- ・挨拶・自己紹介・アイスブレイク(20分)
- ・作品鑑賞① エマニュエル・ムホー《100 colors no.43「100色の記憶」》(20分)
- ・作品鑑賞② 鴻池朋子《武蔵野皮トンビ》(25分)
- ・作品鑑賞③ 鴻池朋子《狼ベンチ》(20分)
- ～休憩～
- ・全体での振り返り(20分)

#### ●鑑賞のポイント

- ・発達障害や精神障害のあるファシリテーターの特性を活かし、作品を通して多様な視点・自由な発想を広げることが主眼に置き、作品の解説よりも「何を感じたか」を自由に想像し共有できる場を目指す
- ・最初に作品の写真をじっくりと見る時間を設けて参加者それぞれに考えを膨らませたのちに、きっかけとなる質問(「皮トンビ」を空に飛ばすとしたら何人で運びますか? 「狼ベンチに座ったらどこに連れて行ってもらえると思いますか?」など)をして、自由に想像を膨らませ、みんなで共有する。

## ●当日の様子

全国的にもまだあまり事例のない、発達障害や精神障害のある人を対象にしたプログラムだった。プログラムの内容を検討する際は、障害のあるファシリテーターとともに、発達障害のある人の特性や必要な配慮を意識しながら検討することができた。参加者の緊張感をほぐし発言しやすい雰囲気をつくるため、アイスブレイクでは「自分を動物に例えると何か、その理由(ひとことでOK)」など親しみを持てるような質問を行った。

鑑賞では、参加者それぞれの特性やペースを鑑み、途中で目を瞑って考えを巡らせるなどゆっくりと空想と対話を楽しむ時間とした。参加者からは、「作品についての思いがけない問いからイメージを広げることができた」という声が聞かれた。また鑑賞の最後にファシリテーターから「この鑑賞会を色にたとえたら何色ですか?」という質問を投げかけたところ、参加者からは、「ゆったりと過ごすことができたので、空をぼーっと見ているイメージで水色」「いろいろな人の気づきから鑑賞を深めていく過程がキラキラしていたので、白と黄色が混ざったような色」「心も頭も真っ白にして、作品との初めての出会いを楽しんだので透明」など、色にたとえて鑑賞会の感想が寄せられた。ファシリテーターからは「オンラインでの鑑賞は、作品を触ったり見たりするのは別の視点を持てる機会だと思った」「現地で鑑賞していると、作品があることを確認したらすぐに次の作品に行ってしまうことも多いので、ゆっくり作品を掘り下げたい人には良いペースだったのではないか」という感想が寄せられ、オンラインの特徴を活かした鑑賞会となった。

## 3. ツール展開

### ① バリアフリーマップ

リサーチの蓄積を生かし、バリアフリーマップを作成。印刷してインフォメーションにて配布するとともに、ウェブサイトでも公開。より多くの人に、自由にバリアフリールートを楽しんでもらえることを目指した。

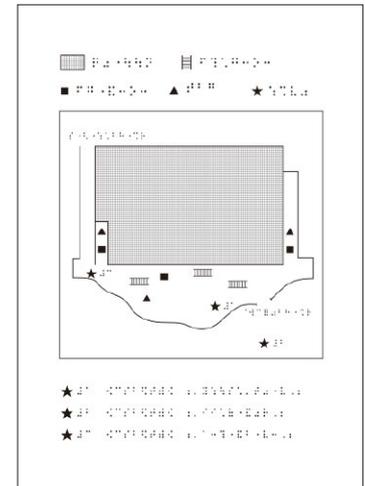
#### 【作成のポイント】

- ・ エレベーターの位置、利用頻度
- ・ トイレの位置
- ・ 駅へのアクセス
- ・ 坂の傾斜
- ・ 目印の確認



## ② ルートマップ立体コピー

視覚障害者と一緒にツアーをまわる際「どこをどのように回っているのか」を実感してもらえよう、ルートマップを立体コピーにて作成。



## 4. 成果と課題

### 〈鑑賞ツアー〉

- ・対話を重視した鑑賞をするという方針のもと、参加者を2グループに分けて少人数での対話鑑賞にすることで参加者の発言機会が多く積極的に感想を共有し対話を深めることができた。
- ・ファシリテーターだけでなく参加者の発言もマイクで話してもらい全員に共有することで、取り残される参加者を作らずに進行することに配慮した。ただし今回のような少人数グループの時には生声とトランシーバーとどちらが対話しやすいかは今後検討が必要。
- ・障害当事者であるファシリテーターが企画構成から関わっていくプログラム作りができたことで、対話鑑賞も充実した内容となった。今後よりインクルーシブな取り組みへの目標として、企画全体や初期段階から当事者が深く関わる仕組み作りも検討できるとよい。
- ・当日運営に関わるメンバー全員で現場下見や作品選定を行い、使用機器(トランシーバー)の事前確認もすることにより、当日のスムーズな運営につながった。
- ・障害当事者の参加者がまだまだ少なく、当事者への広報活動には課題が残る。

### 〈オンライン鑑賞〉

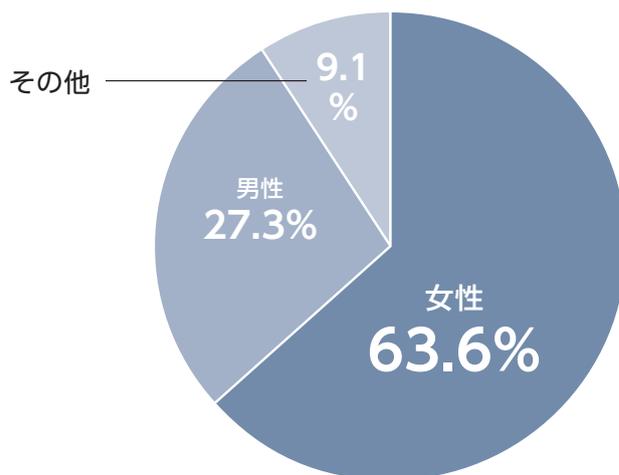
- ・全国的にもまだあまり事例のない、発達障害や精神障害のある人を対象にしたプログラムを、当事者であるファシリテーターと共に企画することができたのは大きな成果といえる。
- ・発達障害のある人への配慮について、当事者の体験や意見から企画の進行に活かすことができた。
- ・事前に本番を想定したりリハーサルを行なったことで、当日の流れのイメージができ、役割分担を決め本番に臨むことができた。

## 5. アンケート結果

### プログラム①

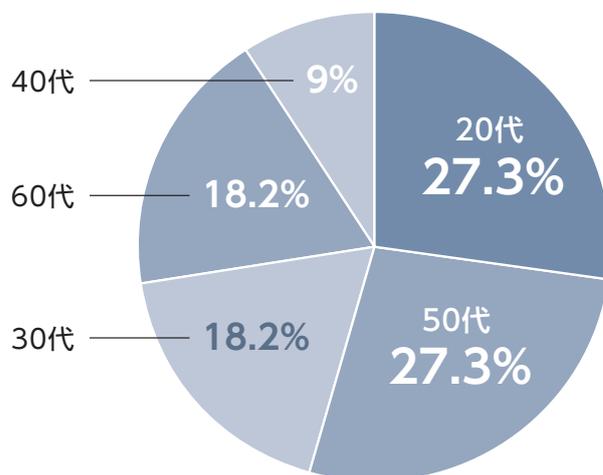
#### 鑑賞ツアー「みんながおしゃべりトラベラー！」

##### ① 性別（11件の回答）



回答しない／0%

##### ② 年齢（11件の回答）

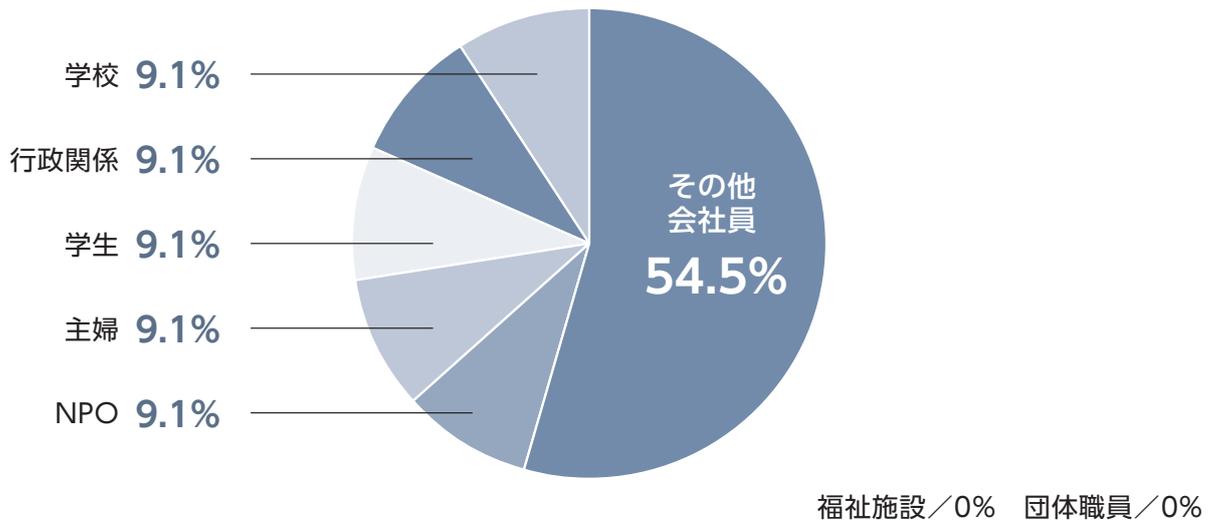


10代／0% 70代以上／0%

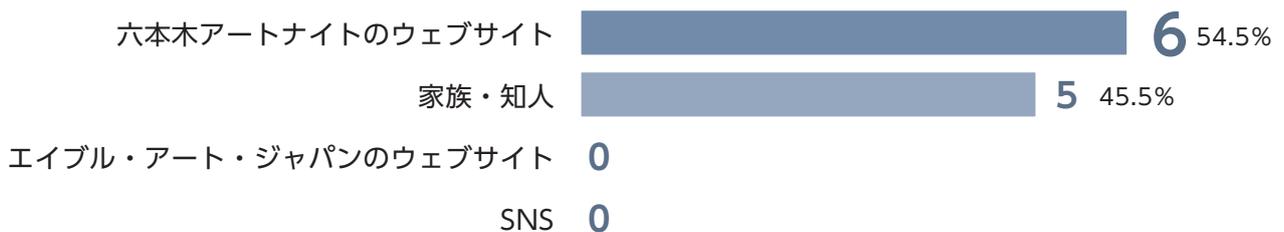
##### ③ 居住地（11件の回答）

東京都 8名、神奈川県 2、千葉県 1

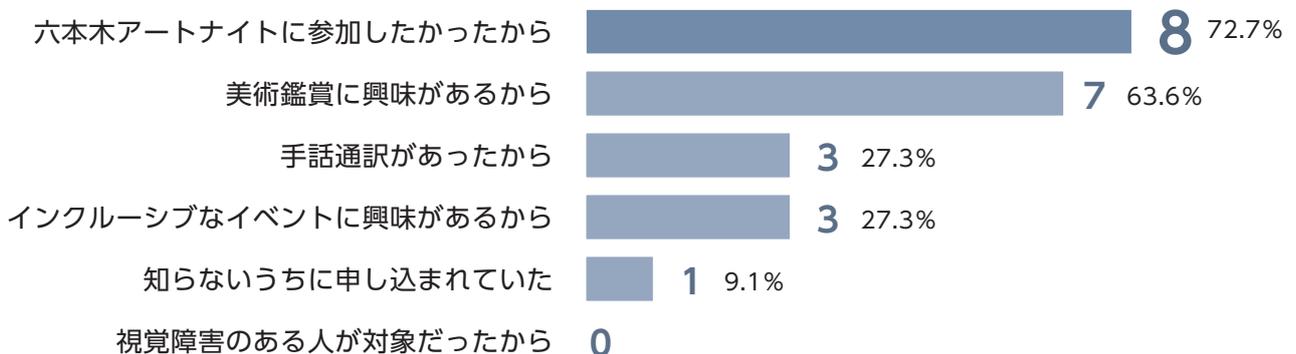
④ 所属 (11件の回答)



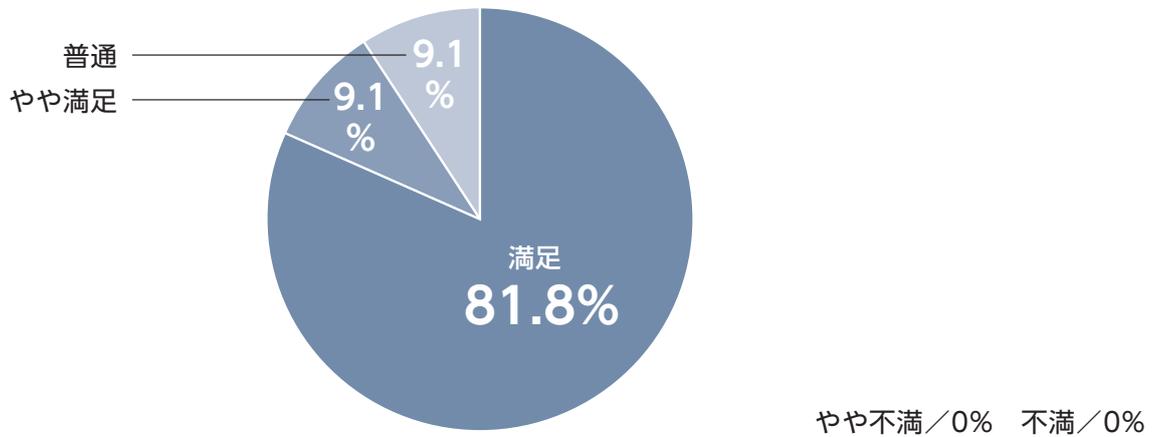
⑤ 本プログラムをどこでお知りになりましたか (11件の回答)



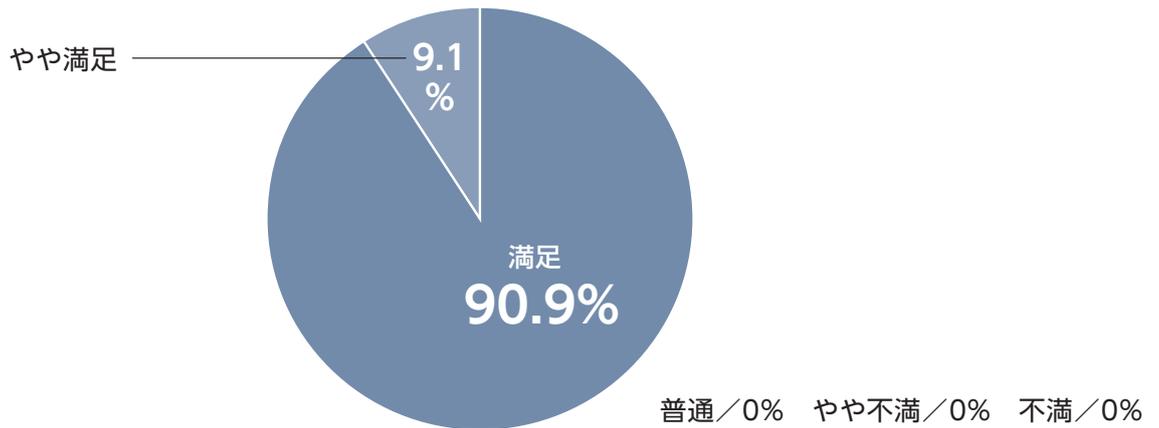
⑥ 本プログラムに参加しようと思った動機は何ですか (11件の回答)



⑦ プログラムの内容についてお伺いします。  
ツアーの長さ、ルートはいかがでしたか。(11件の回答)



⑧ プログラムの内容についてお伺いします。  
作品鑑賞についてはいかがでしたか (作品選定や鑑賞内容、鑑賞時間など)



プログラムの内容について、よかったところ・改善できそうなところがあればご記入ください

- ・ 視覚・聴覚にとらわれず鑑賞できること。感想を共有するという貴重な体験をすることができ、大変有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・ 通訳の方がろうの方と私がたくさん話をできるようにサポートしてくださってうれしかったです。
- ・ いいアイデアでしたよ。設備が用意あってすごい。絵を見てこまかな感じ。
- ・ 視覚・聴覚に特性のある人と交流できたところがよかった。
- ・ 次回の開催がありましたら知らせて下さい。スタッフ、手話通訳者、お疲れ様でした。楽しく鑑賞できて良かったです
- ・ ファシリテーターが2人特性が異なっていてよかった。途中で交代も良かった。もう少し作品の数が多くても……とは思ったが、ゆっくりするのも大切な時間と思った。
- ・ 1作品目を軽めに、2作品目を重めに、という感じだったでしょうか？ 集まった人が1作品目で徐々にほぐれて2作品目に行く、という流れでとても良かったです。またファシリテーターの方が交代されて、お

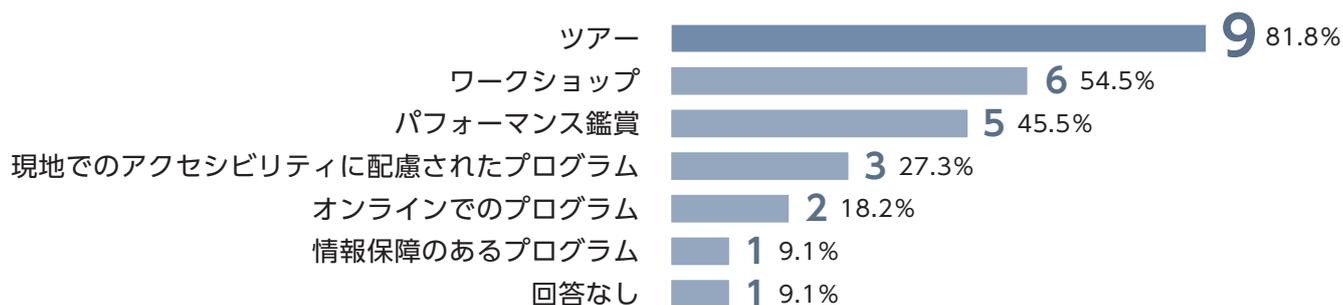
二人共ご一緒できたのも、とてもよかったです。

改善できそうなところは、いずれも、本体以外の部分です

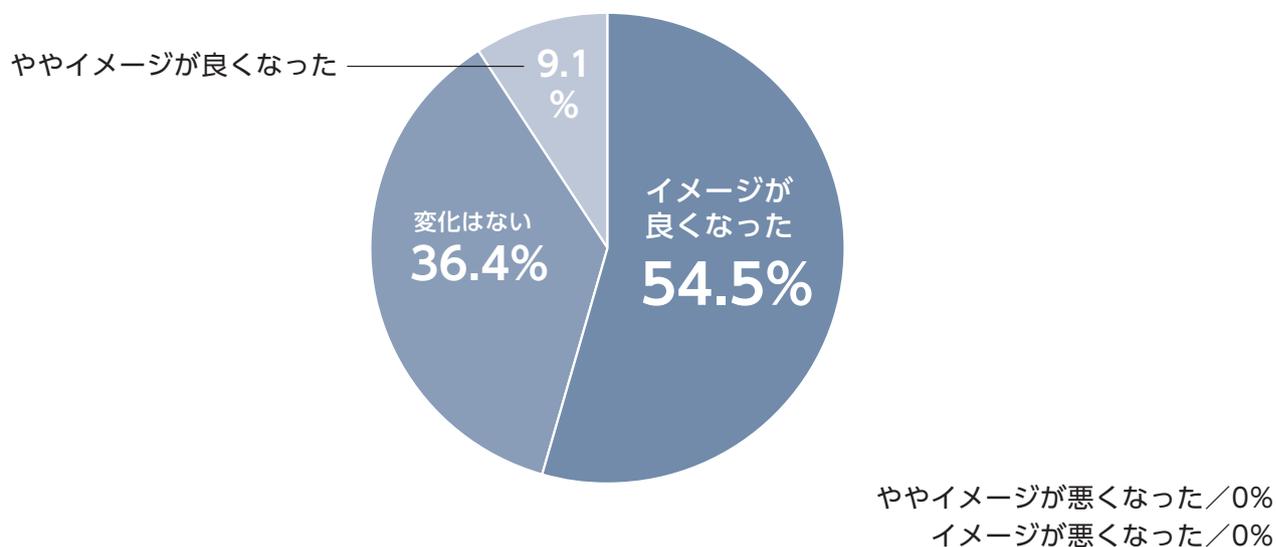
●本体のプログラムに入る前の段階(部屋から出ていくまで)の時間がちょっとかかり過ぎだと感じました。グループ分けは、予め、胸に貼るシールに、チャンネル数もチーム名も書いておけば言葉で説明せずに済みます。コンパクトに、簡潔に、みなにやさしくわかりやすくできるのではないかと感じました。

●スタッフのみなさんの自己紹介について。集まった方々は呼ばれたい名前とチャームポイントで自己開示しているので、スタッフのみなさんも、同じように呼ばれたい名前を胸に貼り、シールにはスタッフ用の色も塗っておき、自己紹介ではチャームポイントを話されたら良かったのではないのでしょうか。フラットなあの場合には、みなさんの所属の紹介はそぐいませんでした。

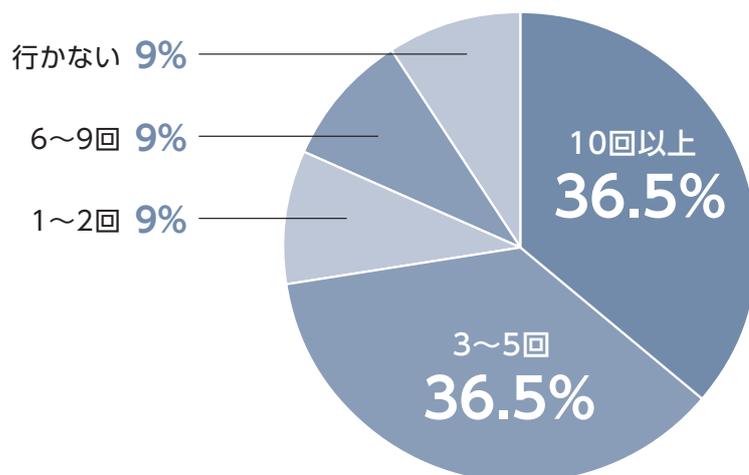
### ⑨ 今後、六本木アートナイトにどのようなプログラムがあれば、参加してみたいですか(11件の回答)



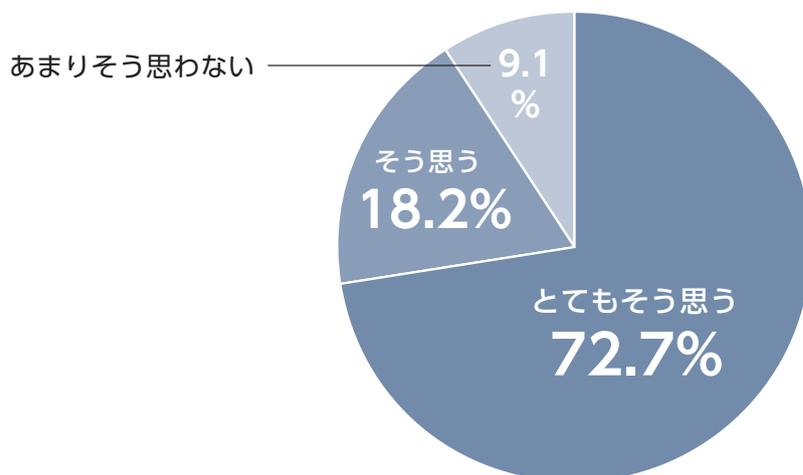
### ⑩ 「六本木アートナイト」に参加されて、六本木の「街」としてのイメージに変化はありましたか(11件の回答)



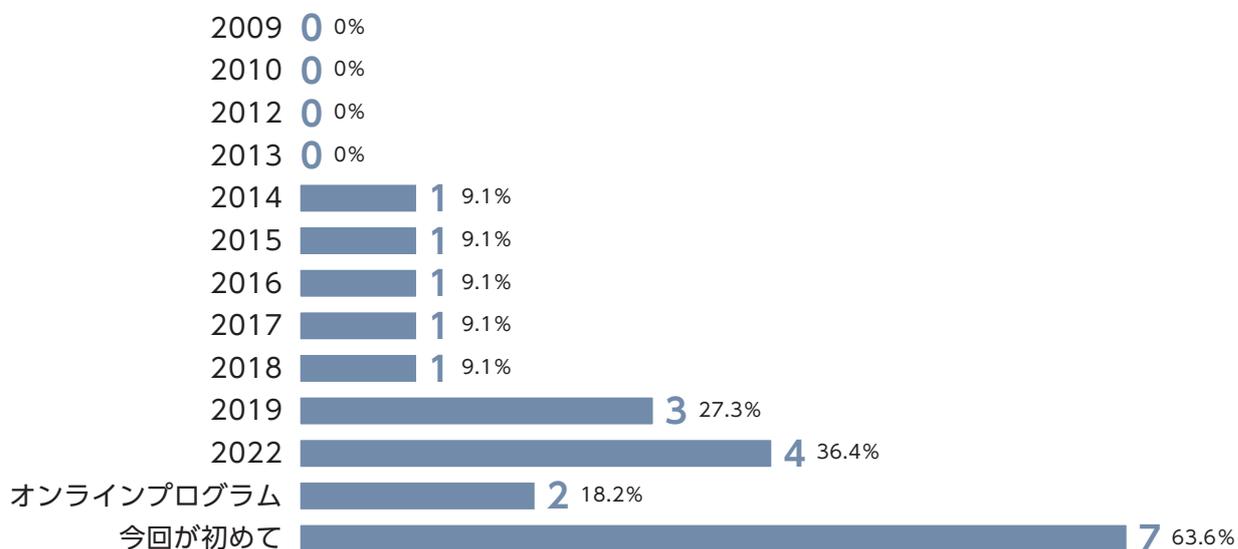
⑪ 1年間で美術を鑑賞する機会はどのくらいありますか(11件の回答)



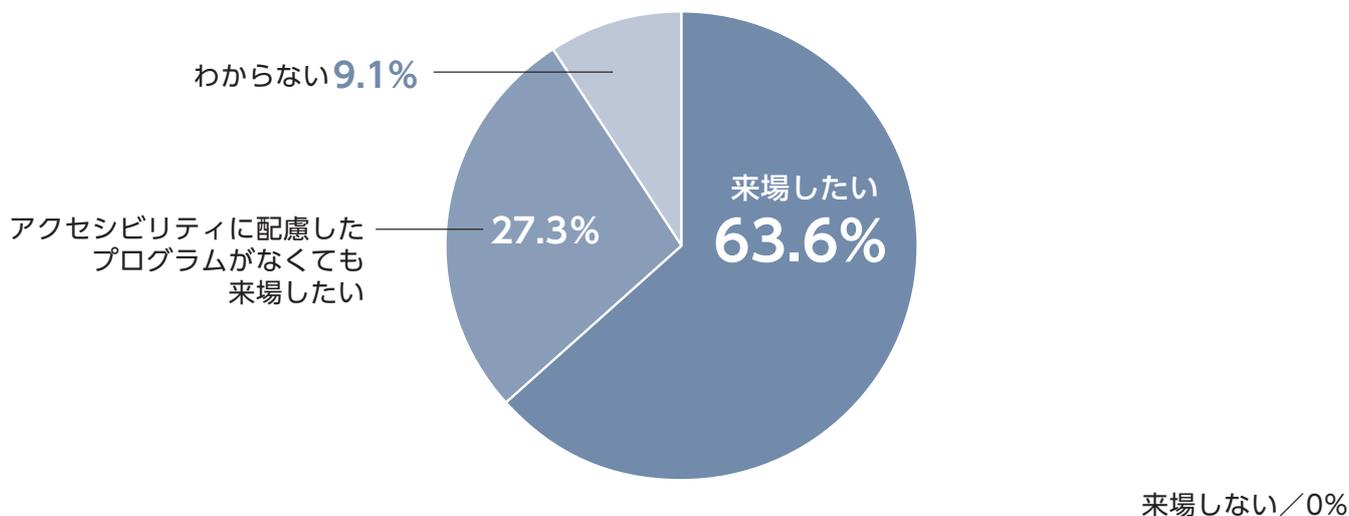
⑫ 美術鑑賞に対して関心は高まりましたか(11件の回答)



⑬ 過去に六本木アートナイトに参加された経験はありますか(11件の回答)



⑭ 次回開催した場合「六本木アートナイト」に  
アクセシビリティに配慮した現地でのプログラムがあれば来場して頂けますか  
(11件の回答)



⑮ 今後六本木アートナイトに期待する、  
アクセシビリティ向上のために必要なサポートがあればお教えてください

- ・ アンケートの性別に配りよがあり、女性から始まることや、無回答の部分があって感動しました。LGBTQ・ジェンダーへの配りよがあるととても嬉しく感じます。とってもたのしかったです。ありがとうございました。
- ・ とても楽しかったです。
- ・ 学芸員のアート鑑賞ツアーも参加したい。
- ・ 文字、手話、両方あると良いかも。また企画して下さい。
- ・ 実行委員に特性のあるみなさんを多く含めて、アクセシビリティ向上のためのサポートプロジェクトを立ち上げられたら、もっといいアイデアが出てくるのではないかと思います。とても楽しい時間でした。ご企画くださいましてほんとうにありがとうございました!

---

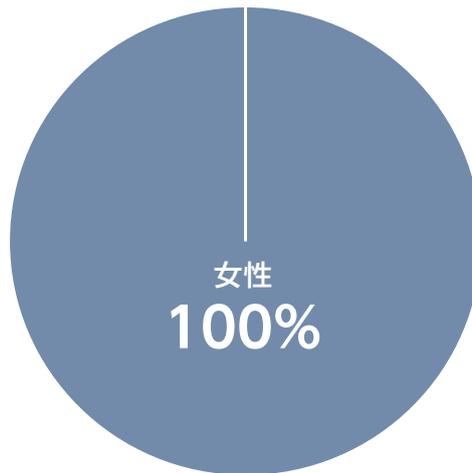
## 5. アンケート結果

### プログラム②

### オンライン鑑賞「空想シェアライン」

---

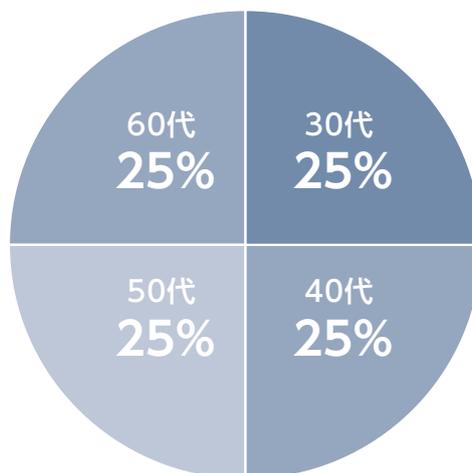
#### ① 性別 (4件の回答)



男性 / 0%  
その他 / 0%  
回答しない / 0%

---

#### ② 年齢 (4件の回答)



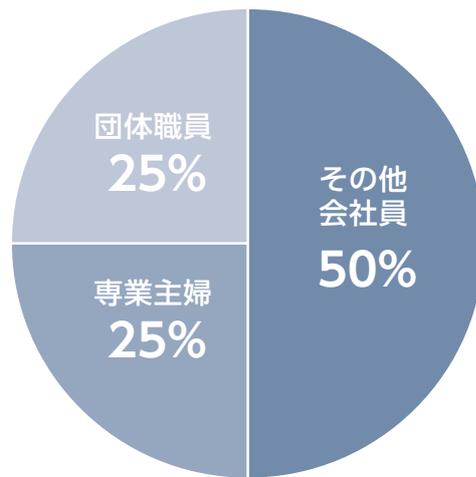
0~9歳 / 0%  
10代 / 0%  
20代 / 0%  
70代以上 / 0%

---

#### ③ 居住地 (4件の回答)

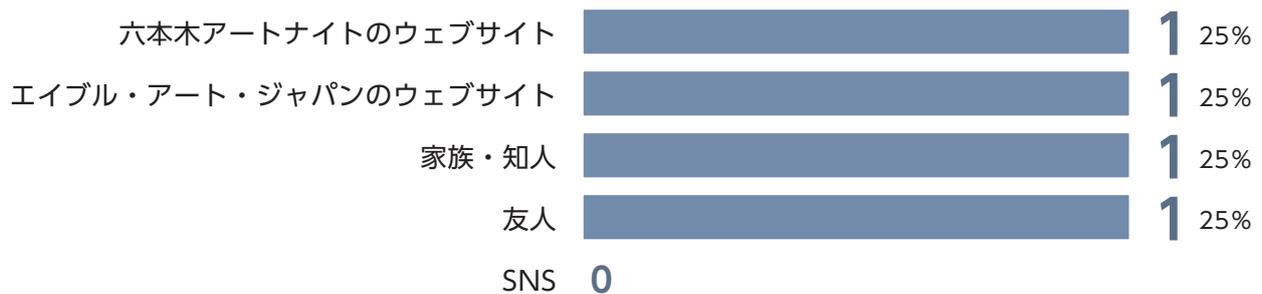
東京都 3名、愛媛県 1

④ 所属 (4件の回答)

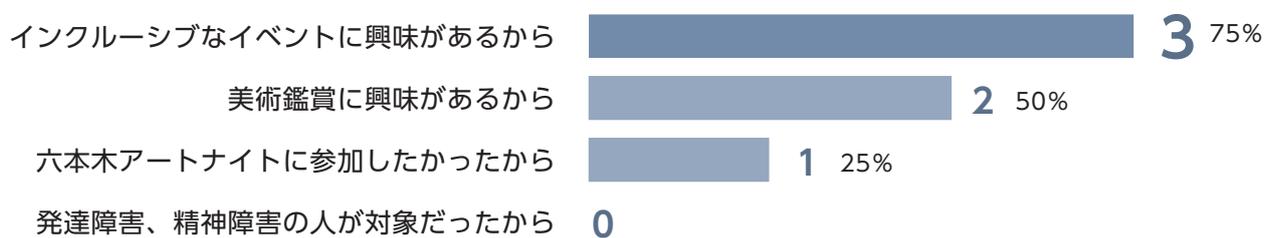


福祉施設／0%  
学校／0%  
行政関係／0%  
学生／0%  
自由業／0%

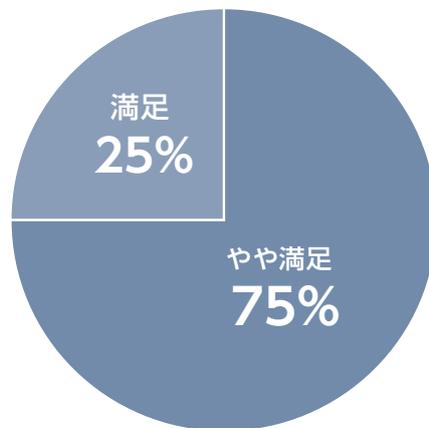
⑤ 本プログラムをどこでお知りになりましたか (4件の回答)



⑥ 本プログラムに参加しようと思った動機は何ですか (4件の回答)

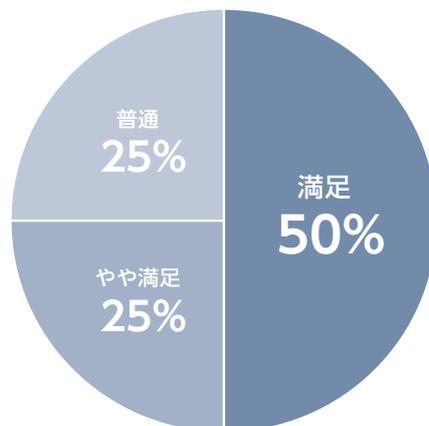


⑦ プログラムの内容についてお伺いします。  
鑑賞会の長さはいかがでしたか。(4件の回答)



普通 / 0%  
やや不満 / 0% 不満 / 0%

⑧ プログラムの内容についてお伺いします。  
作品鑑賞についてはいかがでしたか (作品選定や鑑賞内容、鑑賞時間など)

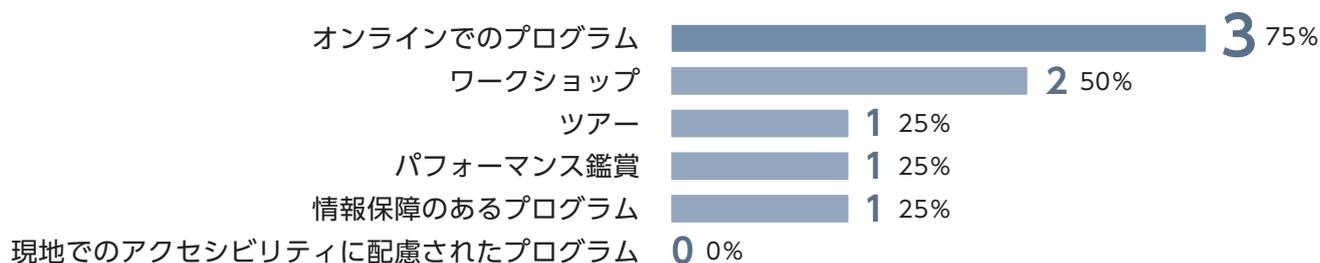


やや不満 / 0% 不満 / 0%

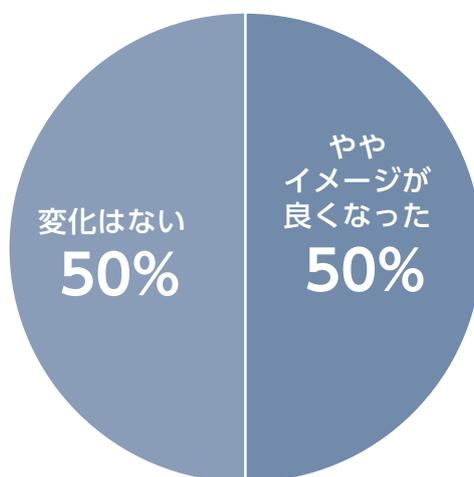
プログラムへのご意見・ご感想をご自由にお書きください

- ・冒頭に呼ばれたいニックネームを聞かれましたが、ワークショップ中に一度も呼ばれることがなかったので意味がなかったかもしれません。他の参加者も共有できるよう、画面表示名は申込時の名前ではなくニックネームに変更してもらいたいかもしれません。

⑨ 今後、六本木アートナイトにどのようなプログラムがあれば、  
参加してみたいですか(4件の回答)

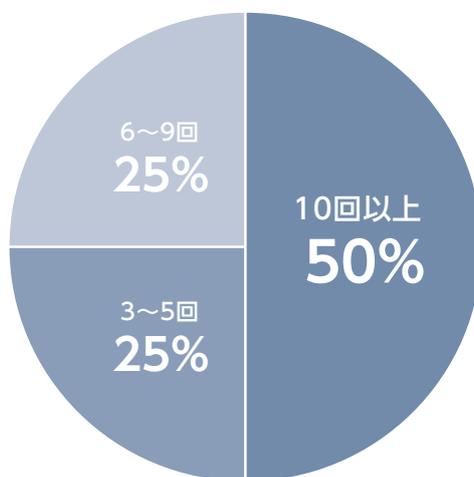


⑩ 「六本木アートナイト」に参加されて、  
六本木の「街」としてのイメージに変化はありましたか(4件の回答)



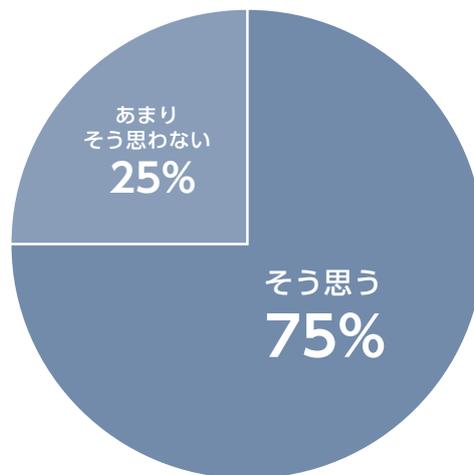
イメージが良くなった／0%  
 ややイメージが悪くなった／0%  
 イメージが悪くなった／0%

⑪ 1年間で美術を鑑賞する機会はどのくらいありますか(4件の回答)



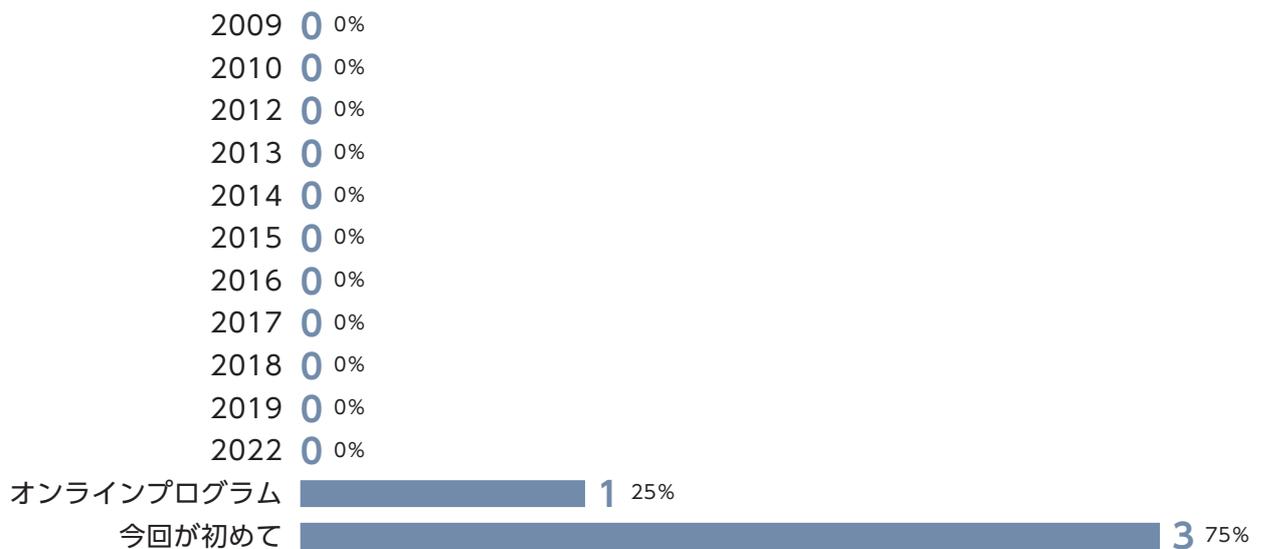
1~2／0%  
 3~5／0%  
 行かない／0%

⑫ 美術鑑賞に対して関心は高まりましたか(4件の回答)



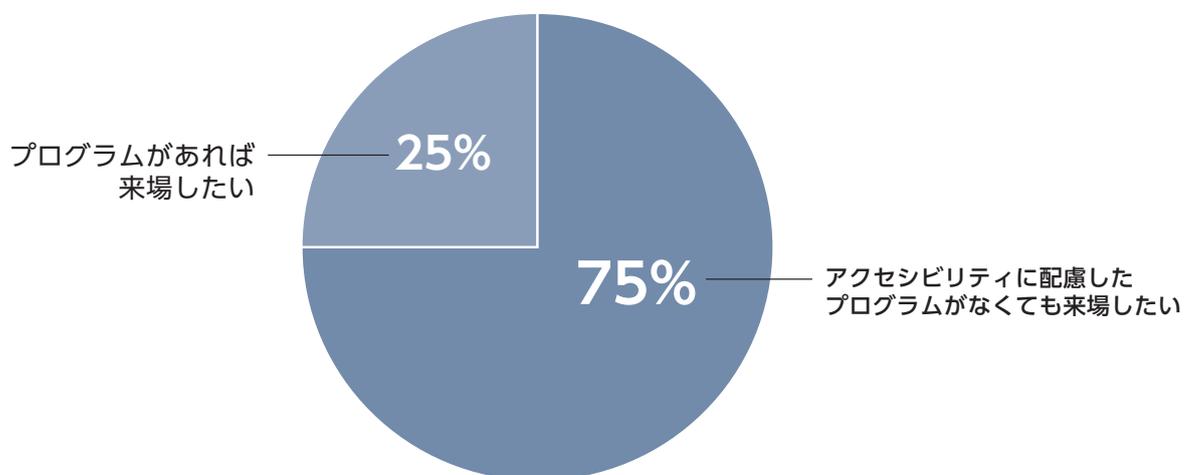
とてもそう思う / 0%  
どちらとも言えない / 0%  
そう思わない / 0%

⑬ 過去に六本木アートナイトに参加された経験はありますか(4件の回答)



---

⑭ 次回開催した場合「六本木アートナイト」に  
アクセシビリティに配慮した現地でのプログラムがあれば来場して頂けますか



---

⑮ 今後六本木アートナイトに期待する、  
アクセシビリティ向上のために必要なサポートがあれば教えてください

- ・ 多種多様な人が楽しめるよう多くの当事者にアンケートをとるなどしても良いのではと思う

---

## 六本木アートナイト 2023

■開催日時：2023(令和5)年5月27日(土)10:00～5月28日(日)18:00

※コアタイム：27日(土)18:00～28日(日)6:00

■開催場所：六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21\_21DESIGNSIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

公式YouTubeチャンネル『RAN TV』 [https://www.youtube.com/c/rantv\\_roppongiartnight](https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight)

■主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、港区、

六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21\_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】

■助成：令和5年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

インクルーシブ・アート・プログラム 報告書

発行：六本木アートナイト実行委員会

〒106-6150 東京都六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

森ビル株式会社 森美術館内

URL：<https://www.roppongiartnight.com/2023/>